

宗谷南農協通信

No 15



宗谷南農協女性部視察研修（黒岳7合目で撮影した写真）

- 農協法公布記念日にあたっての
組合員・役職員へのメッセージ
- 宗谷南農協女性部視察研修
- 組合員懇談会
- 医療・福祉施設へ牛乳乳製品の寄贈
- 宗谷南農協女性部スポーツ研修

- 北海道ホルスタインナショナルショウ
- 枝幸町道の駅まつりで牛乳乳製品
消費拡大運動
- 秋の廃プラ回収
- 枝幸町公共育成牧場一斉退牧
- 授精所だより



農協法公布記念日にあたっての

組合員・役員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 小野寺 俊幸

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で75年を迎えました。

戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、今日に至っております。

一昨年より、新型コロナウイルスという今まで経験したことのないウイルスが世界的に感染拡大し、社会・経済にも大きな影響を与えておりますが、経済活動は徐々に日常を取り戻しつつあります。しかしながら、農業分野において

は長引くコロナ禍の影響による農畜産物の消費の低迷、飼料・肥料等生産資材の高騰により農業・JAを取り巻く環境は厳しさを増しております。

思い返すと世界規模での新型コロナウイルス感染拡大に伴い、マスクの需要が急激に増加しましたが、その大部分を海外からの輸入に頼っていたことから、国内は深刻なマスク不足に陥ってしまいました。

コロナ禍において、いくつかの国が食料の輸出を制限しました。幸いにも、それらの国から日本は食料を多く輸入していなかったため、今のところ大きな影響には至っておりませんが、何らかの問題が発生したとき、私たちの食料はどうなってしまうのか。私たちにとって大きな教訓となりました。

このことから、国民が必要とし消費する食料はできるだけその国で生産する「国消国産」という考え方は、消費者に知っていただきたい大切な

テーマであり、1945年に国連食糧農業機関（FAO）が発足した日、さらに1981年に国連が「世界食料デー」に定めた日である10月16日を、「国消国産の日」として制定し、令和3年に日本記念日協会に登録しました。

今こそ、この国消国産の周知、さらにはJA北海道大会で確認された550万人サポーターづくりを推進するべく、JAグループ北海道が一体となって「アグリアクション北海道」と題した統一した取り組みをしっかりと実践することが必要となります。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることを誓い申し上げます。農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。

宗谷南農協女性部 視察研修



9月29日・30日に女性部視察研修が行われ、上川町方面へ向かいました。

初日は昼食に上川町の森のガーデン内にあるフラテッロ・ディ・ミクニで昼食をとり、同ガーデン内を散策しました。

時期的に見ごろの花が少ない感じではありましたが、綺麗な花々を堪能する事が出来ました。

次に、上川大雪酒造に向かいました。上川大雪酒造では、工場の外窓から工場見学が出来ますが、本格的な醸造はこれからと言うことで、醸造見学は出来ませんでした。施設の外窓より工場内を見学し、工場に隣接している販売所で買物を楽しみました。

次に黒岳ロープウェイに乗りました。黒岳では紅葉が始まっており、5合目までロープウェイに乗りながらきれいな景色を楽しむ事ができました。5合目からはリフトに乗り7合目まで登り、初めは雲がかかっていたのですが徐々に晴れ、遠くの山々も望め壮大な景色に圧倒されました。

黒岳を後にし、宿泊先のホテル層雲閣に向かい、夕食は皆でバイキングを食べ、温泉につかり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は旭川西イオンに向かい、昼食をとりその後、各自買い物をしました。

1泊2日という短い時間での視察研修でしたが、綺麗な景色や、美味しい食事で日頃の疲れを癒すことができ、とても良い研修になったと思います。



組合員懇談会

10月5日、組合員懇談会が乙忠部コミュニティセンターと歌登支所会議室にてそれぞれ開催されました。

今回の懇談会は例年11月に開催している懇談会とは別に、現在の酪農情勢やそれに対する飼料・肥料高騰対策事業の説明が主になっており、現状を広く把握して頂く為に開催されました。

山本営農部長より事業の説明があり、飼料対策として、「国産粗飼料利用拡大緊急酪農対策事業」（1頭当たり7,200円）について説明し、年内支給を目指し、提出する書類の期限が近いこともあり、迅速な提出にご協力をお願いする旨を説明。

もう一つの飼料対策の「配合飼料価格高騰緊急特別対策事業」（6,750円/トン）及び、肥料対策事業の「前年から増加した肥料費の7割を支援する「肥料価格高騰対策事業（国事業）」と、1トン当たり3,125円を支援する「化学肥料購入支援金給付事業（道事業）」について現状決まっている部分について説明があり、詳細については後日分かり次第報告することとしました。

飼料や肥料価格の推移について、領毛経済部長より説明があり、配合飼料（ニューコネクト18）の価格推移として、令和4年7～9月期の価格が前年同期と比べて1.25倍程増加しており、前年より実施されているホクレンによる高騰対策等や安定基金の補てんを含めても増加傾向にあり、肥料についても主要な銘柄だけでも、前年と比べて平均で1.86倍値上がりしている状況であると説明がありました。

生乳の需給バランスについて、再び山本営農部長より説明があり、コロナ禍やウクライナ危機による影響で需給バランスが崩れ、急速な円安や輸入飼料等の高騰によって生乳生産コストも急増したことも踏まえ、11月より飲用向け乳価が10円値上げされることになったが、値上げ分の価格転嫁により生乳需要のさらなる減退も予想され、乳製品在庫の更なる積み増しや、処理不可能乳の発生などが懸念されていることが報告されました。

生乳生産量の推移について、全道で8月中旬以降は前年を下回っており生産抑制の効果が見える形となっているが、今後分娩頭数は引き続き増える見通しとなっており、飲用不需要期・乳価改定を控えていることを踏まえると生産抑制の取り組みはさらに重要となります。

個体販売について、飼料価格等の高騰により素牛・肥育農家の導入意欲が減退しており、又、ホル雄初生牛の大口需要者の民事再生適用も報じられている状況であり、初妊牛・育成牛も生産抑制により府県購買者も少ない為、ホクレン豊富市場においても大きな影響を受け、販売価格が軒並み下落し、現在も低迷を続けている状況であります。

最後に、今年のクミカン見込について、例年と比べると非常に厳しい状況となる事が予想されることから、早めに見込を行い、個々に対応を協議して行きたいと話し、懇談会を終了しました。



医療・福祉施設へ

牛乳乳製品の寄贈

9月16日、医療関係者及び福祉施設へ牛乳・乳製品を寄贈しました。

この取組は、令和2年から始まり今年で3年目となります。寄贈したのは、枝幸町国保病院・枝幸苑・歌翠園の3施設で、牛乳430個、飲むヨーグルト215個を寄贈しました。いまだに収束の兆しが見えないコロナ禍ですが、医療従事者や福祉施設の入園者の皆さまには、今後も牛乳や乳製品を積極的に摂取して頂き、健康維持に役立てて頂きたいと思っております。



牛乳・乳製品の寄贈様子
右：枝幸町国保病院 柳事務局長
左：JA宗谷南 松本参事



宗谷南農協女性部

スポーツ研修

10月27日、枝幸町総合体育館で女性部スポーツ研修会を開催しました。今回はパラリンピックにも起用されているボッチャというスポーツに挑戦しました。お年寄りや障害のある方、小さいお子様も一緒に楽しめるスポーツです。

講師の枝幸三笠山スポーツクラブ（エムスク）の井上さんにルールやボールの投げ方等を教えもらい、5人1チームで2チームを作り試合を行いました。

的になるボールに近い距離のボールで勝敗が決まるのですが、ボールを近づけるのが難しく力加減や落ちる場所を考えながらボールを投げる所が難しかったです。

皆さん、初めは難しそうにいましたが、すぐに慣れ、楽しい時間を過ごしました。

今後、スポーツを通し部員交流と親睦を図れればと思います。





北海道ホルスタイン ナショナルショウ2022

9月24日～25日、安平町の北海道ホルスタイン共進会場にて、「北海道ホルスタインナショナルショウ2022」が開催され、当農協から小椋義則さんの3頭が出品されました。新型コロナウイルスの感染拡大により3年ぶりとなり、感染対策のため従来の8割、320頭での開催となりました。

オフィシャルジャッジは株式会社十勝家畜人工授精所の児玉辰司氏、アソシエートジャッジは一般社団法人ジェネティクス北海道の藤田功氏が務めました。

グランドチャンピオンには土幌町の山岸剛さん出品の13部「サクランド ドアマン ロケット ET」、リザーブグランドチャンピオンのは更別町の今村慎吾さん出品の12部「バージニア ウェルトツプ GC カレント」が選出されました。

当農協の出品牛からは惜しくも1等賞入賞牛は出ませんでした、いずれ劣らぬ乳牛でしたので、来年入賞できる事を期待します。

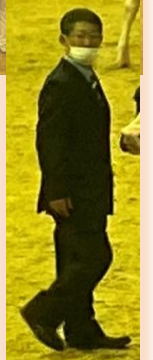


オムラ AN アンドリユー



審査の様子

部	順位	名号	出品者
第2部	2等6席	オムラ AN アンドリユー	小椋 義則
第6部	3等賞	オムラ CB エントリー	小椋 義則
第11部	3等賞	SEA-LAKE TM スパークリング リコライス 6 ET	小椋 義則



審査員
児玉 辰司 氏

枝幸町道の駅まつりで 牛乳乳製品消費拡大運動



10月2日、「道の駅まつり」が開催されました。2020年、2021年に引き続き「よくばりフェスタ2022」の中止が決定し、その代替えとして小規模の実施となりました。

当農協も牛乳消費拡大運動の一環として参加し、当日は、大勢の来場客で賑わう中、女性部の協力のもと、乳製品・じゃがいも・玉ねぎ・かぼちゃの販売及び、牛乳・ヨーグルトの無料配布を行いました。

寒い中でしたが、今回用意した牛乳・ヨーグルト200セット全て配布し、牛乳消費拡大のPRができたと思います。

10月17日から21日、秋の廃プラ回収を行い、約102tの廃プラが回収されました。春の回収量約83tと合計すると約185tあり昨年より約13t少なくなりました。

SDGs等でも取り上げられている通り、プラスチックごみは海洋汚染の大きな問題となっています。オホーツク海に面している枝幸町では、廃プラの処理に特に気を付けなければいけません。

また廃プラは、適切な処理をすればリサイクル可能な資源です。北海道では100%のリサイクルを目指しておりますので、ご協力をお願い致します。

※廃プラ搬入時

搬入時には、フレコンバックから中身が出ないように開口部をしっかりと結んで、スプレーなどで氏名の記入をお願い致します。

秋の廃プラ回収



枝幸町公共牧場 一斉退牧

10月26日に枝幸町公共育成牧場の一斉退牧が行われました。

町内若手酪農課、町職員、農協職員、アグリサポート枝幸職員が作業にあたり、およそ100頭が退牧していききました。

入牧時よりも100kg以上増体した育成牛を相手に四苦八苦しながらの作業でした。

天気にも恵まれ、爽やかな秋風が吹く中、自分の牧場へと帰って行きました。



段々と日が短くなり、寒くなってきました。今回は寒冷ストレスについてお伝えしましたので今回は、哺育牛の寒冷対策についてお伝えしていこうと思います。

哺育牛の死亡率

宗谷管内のある地区で、出生後30日以内に死亡した子牛の令和3年度の年間推移を追ったデータによると、出生子牛に対する死亡子牛の割合が4～5月、および12～3月に5%程まで死亡率が上昇しています。これは7～9月に比べて約1.5倍にもなります。

子牛の死亡率を下げるポイントとしては以下の方法があります。

- ①出生時の管理 : 気道の確保、身体を乾かす、適切な初乳給与。
- ②抵抗力をつける : 哺乳量UPを検討。
- ③身体の冷えを防ぐ : 身体を濡らさず、冷気を防ぎ、温める。
- ④病気に感染させない : 飼養環境を汚さず、換気を良くする。

対策として…

生まれた子牛の身体が濡れたままでは、どんどん体温が奪われます。タオルやワラなどで、**しっかりマッサージをする**ように拭くことにより、親牛のリッキングと同様に子牛の血流を良くし、代謝を上げる効果が得られます。このことで心肺機能が安定して呼吸が落ち着き、消化器官に溜まった羊水や胎便の排出が促されやすくなり、ミルクを飲みたがる効果も期待できます。

濡れた被毛には保温効果はありませんので、身体を濡らさないようにすることが大切です。**特にお腹を冷やさない**ことが重要です。

濡れた敷料は交換し、乾いた状態を維持することで保温につながります。

子牛は体が小さく十分な脂肪を蓄えていないので、**寒さの影響を強く受けます**。冷気が直接当たったり、コンクリートや鉄柵などの冷たいものに触れないようにすることが大切です。

広い場所であれば囲って、体温が放散しないようにします。また、カーフジャケットや遠赤ヒーターなどの補助器具を使うことも効果的です。



寒冷対策と同時に換気も重要です。肺炎は下痢と並ぶ子牛の2大死因です。換気扇を緩やかに回したり比較的暖かな日中に窓を開放するなどの方法もあります。

これからどんどん寒くなっていきますが、今回お伝えしたことを参考にいただければ幸いです。

